

平成 28 年度お城を中心としたまちづくり懇話会 議事抄録

日時：平成 29 年 2 月 21 日（月）

13：30～15：30

会場：勤労福祉会館 401・402 会議室

1 開会 公園みどり課 森補佐

2 あいさつ 都市整備部 船水部長，倉原座長

報告に先立ち，青年会議所理事長波紫裕司氏が本年度から委員に就任された旨，森課長補佐より説明があった。

	3. 報告事項
[報告]	■(1)計画に位置付けられた施策の平成 28 年度の事業実績，(2)計画に位置付けられた施策の平成 29 年度の事業予定について
事務局	(1)，(2)について事務局より報告を行った。
齊藤委員	《質疑・意見等》 去年の懇話会において，検討事項となっていた件があったと思う。去年の懇話会の場では担当課がはっきりしなかったが，その後どうなったのか。
事務局	また，今後の予定資料の中に台所の施設の撤去とあるが，具体的にどの施設なのか。
齊藤委員	撤去する施設として現在検討しているのは藤棚や，階段等についてである。昨年度の検討事項になっていた件については後ほどお答えしたい。
倉原座長	今年の発掘調査では昔の鶴ヶ池の遺構が見つかったと聞いた。そのことを考えると，これまでずいぶんお城の形状も改変されてきたのだなと考えるところである。
事務局	私も現在お城に関するいくつかの委員会に関わっているが，大変興味深いと思うことが多くある。
歴史文化課	今年度は多目的広場のトイレの南側や四阿の南側の発掘調査を行った。今回の結果により，過去の建物跡が初めて確認された。
事務局	台所はこれまでも建物があつたと言われてはきたものの実際の絵図などでの記録は少なかった。しかし，今回の発掘調査により建物の土台部分を表す礎石が確認できたところである。その礎石の東側からはおそらく築城当初のものと思われるお堀の跡が確認された。
	台所の建物とお堀が同じ時代に存在したとは考えられないが，現在の鶴ヶ池の範囲よりも内側に築城当時の堀があつたことが確認できたということとなる。同じく，過去の土塁の跡も今回の発掘調査で存在が裏付けられる結果となった。
	昨年度の検討事項となっていたことというのは案内板や説明板の整備についてである。このことについては当課と歴史文化課それぞれに係る事項であり，基本的に当課としては都市公園としての公園の利活用に係る案内板・説明板の整備については整備を行って参りたいと考えている。史跡に係る専門的な説明板については歴史文化課と今後協議を行いながら整備について進めて参りたいと考えている。

[報告] 事務局	<p>■ (3) お城を中心としたまちづくりエリアの変化について</p> <p>(3) について事務局より報告を行った。</p>
斉藤委員	<p>《質疑・意見等》</p> <p>私は育ちが紺屋町なので、番屋の2階では子ども会に利用したりしていた記憶がある。その後、しばらく入ることがなかったがイベントではたくさん人も来たようで、しっかり利活用がなされているという印象を受ける。</p>
倉原座長	<p>紹介されたイベントなどは、子ども達をはじめ、関わる主体によってもそれぞれの特徴や良さが出てくることと思う。</p> <p>良い意味で盛岡は行政主導ではない形であまりうまく事業化が進んでいるとの印象を受ける。しかし逆に、行政側があまり動かないから民間がやらざるを得ないというようなことも言えるのではないかと考える。</p> <p>また、行政にしかできないようなリノベーション案件もあると思われる。今後は民間と行政が連携しながら事業を進めていくということが重要となってくると思う。</p>
事務局	<p>リスクをかけずに、長期にわたって支援していけるような物件があれば行政は積極的に進めていくべきである。</p>
倉原座長	<p>番屋に関して言えば、大正時代に建てられた建物である為、耐震対策がなされていないということが課題であり、市としても今後向き合っていくべきところと捉えている。ただ、内装であるとか、販売スペースとして使われるべき空間の整備については民間の設備投資で行うべきことと捉えている。</p>
事務局	<p>はじめは単体の物件から事業化していくことと思われるが「エリア」というのも意識して進めていけたら良いと考える。計画段階からある程度のエリアを見据えた進め方をしていくことも、大変重要ではないかと考える。</p> <p>内丸緑地の例も番屋の例もはじめからエリアを見据えた計画として進んでおり、これをきっかけにエリアを拡大していきたいという思いがあるようだ。</p> <p>医大移設の問題も見据えて、今後どうエリア展開していくか検討していくとのことである。</p>
倉原座長	<p>このような事例が積み重なることによって、まち全体の価値を高めることにつながり、人も集まり、経済効果が生まれるということだと思う。</p>
斎藤委員	<p>番屋プロジェクトは地区の町内会なども関わっており、もともとエリア発想の計画であると記憶している。</p>
事務局	<p>内丸緑地についてであるが、ヒマラヤシーダを切ることについては過去の教訓も参考にしなければならないことと思うが、どのように検討されているのか。</p> <p>現在の検討状況としては、①全て残す②間引きをする③芯止めをする、の3案くらいのところで検討している状況である。来年度に一定の方針を決めて再来年度に具体的な実施段階となる見込みである。</p>
斎藤委員	<p>内丸緑地のヒマラヤシーダは計画性無く植えられたものであり、ある程度思い切った判断をすることも必要ではないかと考える。例えば切った跡にはサクラを植えるなど、盛岡に合った樹木を植えた方が将来的にも良いのではないかと考える。</p>
事務局 斎藤委員	<p>確かに樹高も高く、かなり危険な木であるということは事実である。</p> <p>過去、盛岡市で盛岡城跡公園前のヒマラヤシーダを切る際には、いろいろと騒動になったが、実際切ってしまった後でもなお異論を唱えるような方はいなかったように思う。やはり切ってしまったほうが良いと思う。</p>
事務局	<p>いずれどのような結論になろうとも、進め方については慎重にやっていく必</p>

船水部長	<p>要があると考えている。</p> <p>また、盛岡城跡公園においても現在植栽管理基本計画の策定を進めており、市民に対しては広報やホームページなどで事前周知を丁寧に行っていきたいと思っている。</p> <p>景観シンポジウムの際にも、過去のヒマラヤシーダ伐採の騒動について話が出ており、実際に切った後は見通しが良くなって良かったなどの意見も多くいただいている。「切るべきでは無かった」などというような声は出ていない。ただ、当時の進め方に問題があったということは認識しているところである。</p> <p>また番屋については昨年地元町内会から市へ寄付いただいた物件であり、市としても今後の利活用のために予算化できるよう検討しているところである。来年度予算案には耐震診断について盛り込んでいる。この診断を受けてどのような補修をすべきかということも今後明らかにしていく予定である。</p> <p>耐震補強がなされればもっと広く一般に開放することが可能となり、さらなる利活用が促せるのではないかと考えている。</p> <p>行政の事業スピードに比べ、民間のほうがスピードが早いと感じているため、乗り遅れることのないように進めていかなければならないとも考えている。</p>
倉原座長 事務局	<p>各種イベントについて、来客数の減少理由にはどんなことがあるか。</p> <p>雪あかりについては、平成28年度についてはつい先日イベントが終了したばかりであり集計が追いついてない部分がある。また環境緑化まつりについては毎年桜の開花時期に合わせて開催しているが、近年は開花時期が予想できないことやウソ（鳥）の被害などもあって、人数が安定しないような部分があると捉えている。</p>
倉原座長 事務局	<p>エリアの変化についてであるが、リノベーションスクールが、事業を起こす上での一つの土台となっているように思う。</p> <p>他自治体においてもリノベーションスクールを一つのきっかけとして、事業化に繋げていくような気風が高まっている。</p>
倉原座長 事務局	<p>盛岡には盛岡特有の進め方があって良いのではないかと思います。あえて「～スクール」というような名前にはしない方が良いとは思いますが。プレイヤーは民間としつつも土俵は行政が作っていくというようなスタンスが必要と考える。</p> <p>今回の場合はリノベーションスタディということで岩手県の予算で実施したものである。通常のリノベーションスクールは民間と行政が入り混じった形でいくつかのグループに分かれて進めていくものであるが、今回の場合は民間と行政それぞれ2グループずつに分かれて進めたものである。この点に関しては、通常他都市でも行われているものとは異なる、言わば「盛岡型」のリノベーションスクールと言えるのではないかと考える。</p> <p>「稼ぐ」具体的なプランは民間が考え、それを実現するために行政としてどのような規制緩和ができるのかというようなスタンスを持ち、相互に協力していくことが重要である。</p>
倉原座長 事務局	<p>行政側としても「稼ぐ」ことに対し、上手くなっていく必要がある。市の財政から考えると必要な視点ではないかと考える。</p> <p>少し話は変わるが女性限定のリノベーションスクールも最近行われている。通常リノベーションスクールの参加者は男性が多いが、様々な形でアイデアを出す場が設けられていることは事実である。</p>
中野次長 事務局	<p>家守舎の方々は元々盛岡出身の方なのか。</p> <p>「モリノバ」のみが盛岡以外の出身ではあるが、盛岡に対し大変深く愛着を</p>

<p>倉原座長 中野次長</p>	<p>持っていただいていることは事実である。 女性立場からすると「建物」は取り扱いづらいと感じるものなのだろうか。個人的にはハード事業よりもソフト事業の方が扱いやすいと感じる部分はある。 また、盛岡の外から来られる方と実際に盛岡でずっと生活してきた方とではまちに対する見方がだいぶ違うと思う。 リノベーションスクールなどの機会にはぜひ子ども達も参加できたら良いと考える。若い世代が何を考えているのかを知る良い機会となる。</p>
<p>倉原座長</p>	<p>確かに、将来の市民として、小さいうちからまちづくりに関わっていくことは今後のまちづくりを考えることにおいて大変重要である。</p>
<p>中野次長</p>	<p>冒頭、斉藤委員がおっしゃったように、番屋を子ども会で使った記憶があるなどというような体験はとても貴重であり、大切なことである。そのような実体験から意識が徐々に高まっていくことと考えられる。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回の懇話会においては、エリアの変化に対するボリュームを膨らませた形で出来る限り多くの事例を皆様に報告させていただいたところである。 当課としても、現在パークマネジメントということで民間と連携しながら様々な事業を展開していきたいと考えているところであり、今後また具体的な動きが出てきたら皆様に報告させていただくとともに御意見をいただきたいと考えている。</p>

4 閉会

公園みどり課 森補佐